

相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名：「出会い発見！青少年応援事業 ちいき発見カフェ」
※出張形態：相談対応ブース
2. 出張者：坂西卓郎（(公財)PHD協会職員）
3. 実施日：2012年9月22日（土）10：00～14：30
4. 場所：新旭総合福祉センター やすらぎ荘集会室
（滋賀県高島市新旭北畑 45-1）
5. 対象者：滋賀県内に在住、在勤、在学の15歳～35歳くらいまでの方
6. 実施報告：地域展開の取り組みとして滋賀県国際協力推進員の方と連携し、上記「出会い発見！青少年応援事業 ちいき発見カフェ」にて相談員対応ブースを実施した。
今回は「社会とのつながりが希薄化している青少年を対象に自律的に社会で生活できること」を目標としてカフェが実施された。実際には対象となる社会とのつながりが希薄化しているような青少年はそれほど多くはなかったが、実際に地域で対象となる青少年に直接対応する NPO 同士の横の連携を図り、対応力を強化する狙いがあった。PHD 協会は唯一の県外からの参加であったが、NGO 相談員の出張サービスなどで今後の連携が可能であることが確認され、現地 NPO からも歓迎された。
実際の相談としては滋賀県ならではの相談が相次いだ。滋賀県の特徴としては環境への取り組みは活発であるものの、国際協力に興味のある若者が活躍できる場が少ない。特に NGO が少ないので、国際に興味のある人たちは JOCV に参加する傾向が強いと感じた。まずはそういった人たちに関西や中部で参加できる NGO の存在を伝えることを心がけた。また JOCV から帰国した後のキャリア形成に不安を抱えている人も居られたので、JICA の国際協力調整員や市民参加協力調整員などの存在を伝え、方向性を考える手伝いをした。相談件数は多くはなかったが、時間中はひっきりなしに相談者が来られ対応に追われた。今回の傾向としては一人に対応する時間が30～45分と長くなかったことが挙げられる。
今回、滋賀県および滋賀の NPO の方との連携ができたので、今後は NGO 相談員のいない滋賀県での相談員活動を積極的に実施していきたいと考えている。国際協力推進員と連携しての地域展開の第一歩としては大変有意義であったと感じている。今後も継続していきたい。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



「出会い発見！青少年応援事業 ちいき発見カフェ」出張サービス「相談対応ブース」の様子①

滋賀の県職員、NPO 関係者、一般参加者に NGO 相談員制度についての説明をしているところ。



「出会い発見！青少年応援事業 ちいき発見カフェ」出張サービス「相談対応ブース」の様子②、③

②個別相談を行っているところ。

③カフェ全体の様子。来場者は約 100 名。

(特活) NGO 福岡ネットワーク : NGO 出張相談報告書 (平成 24 年 9 月)

(ア) 団体名・出張サービス企画名・実施日時・場所

団体名 : (特活) NGO 福岡ネットワーク

企画名 : 地球の上に生きる 2012 DAYS JAPAN フォトジャーナリズム写真展 in 北九州

実施日時 : 平成 24 年 9 月 28 日 (金) ・ 29 日 (土) 10 時 ~ 19 時

場所 : 小倉井筒屋新館 9 階パステルホール (北九州市小倉北区船場町 1-1)

(イ) 実施内容

DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞受賞作品約 80 点の展示を行う写真展にて、写真展を見て「自分にできること」を知りたいと考えた方々を対象とし、NGO や国際協力の活動を紹介するような相談対応を実施した。

(ウ) 集客人数または相談対応件数

参加者 : 274 名 (28 日 : 78 名 / 29 日 : 196 名)

相談件数 : 6 件

所感及び効果等

今回の出張相談は、DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞受賞作品約 80 点の展示を行う写真展にて、写真展の参加者に活動を紹介したり、何かしたいと思った方の相談対応をするものとして実施した。写真展での出張相談というのは特に珍しく、相談件数としては少ないものとなった。また写真展の場所柄もあり、参加者の年齢層は 40 代以上が多かった。

2 日間相談ブースを設置し対応を行ったが、写真展を見て世界の現状を初めて知る方も多く、すぐに自身で何かをしてみたいと思う方よりも、まずは自分で多くのことを学んでみたいと思う方が多かったように感じた。そのため、相談ブースに来る方は少なく、当団体発行の機関紙やパンフレット、イベントチラシなどを持って帰る方が多く見受けられた。しかし、受けた相談内容としては「ボランティアをしたい」というものや「国際協力のイベントを自分でもやってみたい」という行動的なものであり、対応としては具体的なボランティアやイベントの探し方や参考までに一部情報紹介を行った。

所感としては、相談というよりも、より多くの参考となる情報紹介や団体紹介が必要となってくるのではと感じた。初めて世界の問題について知った方に、多くの選択肢を与えることができるように、今後このようなイベントの際には対応していきたく思う。



▲相談ブースの様子



▲相談対応の様子

平成 24 年 10 月 9 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

いつもお世話になっております。

さて、NGO 相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたのでご報告申し上げます。

記

1. 企画名:「まつやまリーダーズサミット」

【形態:相談対応サービス・講演・セミナー・NGO 相談員デスク】

出張者氏名:林知美

2. 依頼元／主催等団体名:まつやま NPO サポートセンター

3. 実施日時:平成 24 年 9 月 29 日(土)13 時 30 分～16 時 30 分

4. 実施場所:愛媛県生活文化センター(愛媛県松山市北持田 139-2)

5. 参加人数:国際交流関係のボランティアに興味のある市民・企業・NPO 団体 60 名

6. 実施概要:

「まつやまNPOリーダーズサミット」は、まつやまNPOサポートセンターが開催しているNPO・企業・行政の交流会で「お互いの活動をもっと知りあうことで助け合いを生み出すこと」を目的としている。

松山市内・近辺で活動する国際交流・協力団体の活動紹介を行った。国際協力・交流活動、ネットワーク・中間支援に興味を持つ方からの相談が多く、当団体の経験を活かした個別対応をするとともに、交流会に出展している他団体と連携してそれぞれのニーズに合わせた対応を行った。以下は当日行った相談対応の内容である。

- ① 男性・NPO 関係者:帰国報告会を実施したが、新たな支援者がなかなか開拓できていないため、広報等の方法についてアドバイスが欲しいという相談があり、当団体に事務局を置く四国NGOネットワークや愛媛県国際交流協会(EPIC)、松山市国際交流協会等のメルマガへの情報提供について紹介した。
- ② 男性・NPO 関係者:東日本大震災支援に関して協力したいと考えているが、愛媛県内でどんな支援をしているのか、具体的な情報を提供して欲しいとの相談があり、被災者自身が設立した「NPO 法人えひめ 311」について説明し、オフィスでの相談対応についても紹介した。また、当日参加していたえひめ 311 事務局長を紹介した。
- ③ 女性・NPO 関係者:フェアトレードコーヒーや貴団体が運営するカフェについて知りたいという相談があり、当団体のカフェ運営や取り扱っている四国に拠点を置く国際協力団体のフェアトレード商品等について紹介した。
- ④ 女性・中間支援団体:「健康」をテーマとしてイベントを企画予定しており、オーガニックやフェアトレードに取り組む団体やグループを紹介してほしいという相談があり、愛媛県内で活動するフェアトレードや環境グループについて紹介した。



活動紹介、相談対応の様子



全体会の様子

以上

2012年9月28日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人ソムニード
NGO相談員 宮下 和佳

NGO相談員による出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施しましたので報告致します。

記

1. 企画名：国際交流イベント「ハローギフ・ハローワールド 2012」における相談デスクの設置 【形態：相談対応サービス】
2. 出張者氏名：上清水 温子
3. 依頼元／主催等団体名：岐阜県国際交流団体協議会、(公財)岐阜県国際交流センター
4. 実施日時：平成24年9月9日(日)10時～16時
5. 実施場所：CINEX HALL(岐阜県岐阜市日ノ出町2-20)
6. 参加人数：約2,000名(国際交流・国際協力に興味・関心を持つ岐阜県在住者)
7. 相談件数：7件

8. 企画の概要

(1) 企画内容：当該イベントは、岐阜県内の国際交流団体の活動と、各国文化を様々なパフォーマンスやブースを通じて紹介するものである。イベントの目的の一つに、「参加者が国際人としての意識を深め、国際協力に参加していく足がかりとしていく」ことが挙げられている。そこで当会の活動紹介ブースに NGO 相談員デスクを設置し、参加者からの質問・相談に応じる。

(2) 目的：

- ①地域や国内外で参加できる多様な国際協力活動への参加方法について周知する。
- ②NGO 相談員制度について周知する。

9. 相談対応内容

- ①インド社会・現状について
- ②大学留学生との交流イベントについて
- ③多文化共生活動について
- ④地域活性化活動と NPO について
- ⑤ボランティアグループの広報について

10. 所感及び効果：毎年開催されている多文化共生・国際交流イベントであるが、今年「日印国交樹立 60 周年記念」として、インド民族楽器の演奏と民族舞踊がメインの催しとして開催された。そのためか、インドに関心のある来場者・インド渡航歴のある来場者から、「現在の（経済成長を続ける）インド社会」に関する問い合わせが多く寄せられた。また、岐阜市を中心に国際的な活動をする大小様々なグループが出席・来場していた為、そうしたグループの担い手からの相談も寄せられた。会場となった岐阜市は、大都市である名古屋市まで電車で 30 分程度の通勤圏内であるが、それゆえに NGO/NPO 活動に関心のある方が（居住地である岐阜市での活動の担い手にならず）名古屋市の活動に参加する傾向があることなど、大都市以外で活動する担い手の課題を直接聞き、共に解決策を考えていくきっかけともなった。



2012（平成24）年度 NGO 相談員出張サービス報告書

報告者：（特活）関西 NGO 協議会 田中十紀恵

1. 企画名：

「国際協カステーション 2012」 NGO 相談員ブース出展

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

実施日時：平成 24（2012）年 9 月 15 日（土）

10 時 00 分～18 時 00 分

場所：京都駅ビル（京都市下京区）

出張者氏名：田中十紀恵

2. 実施内容：

会場である京都駅ビルを活用する多くの人々に途上国の状況をお知らせし、関心を持っていただくとともに、身近な国際協力への参加方法を紹介することを目的にブース展示、報告会、ステージイベントなどがおこなわれた。

当会は、NGO の活動を紹介する「NGO ブース」コーナーに「NGO 相談員ブース」を設置し、参加者からの個別相談に対応した。

3. 集客人数または相談対応件数：

参加者：1,445 人（展示会場）、ブース出展：10 団体（相談員ブース含む）

相談対応件数：19 件

4. 所感及び効果等：

全体として、インターンや就職、海外ボランティアに関する問い合わせが多く、国際協力や NGO への具体的な関わり方を模索する層が NGO 相談員ブースを活用したと考えられる。また NGO 相談員制度そのもの（活用の仕方や対応可能な相談内容など）に関する問い合わせもあり、NGO 相談員制度の周知もできた。

NGO 相談員が参加した効果として、インターンや就職に関する相談対応を多くおこなったことで、イベント参加者が各出展団体の活動内容を知るだけにとどまらず、国際協力や NGO への具体的な関わり方を提示することができたと考える。

また当会としては、イベント開催中に NGO 関係者や JICA 関係者との意見交換を通じ、それぞれの活動や問題意識について情報共有する機会ともなった。



以上

2012年9月7日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 函館「世界ガチャガチャ夜市」における NGO 活動についての講演

開催日時： 2012年9月7日（土）18時00分～19時00分

主催者： （財）北海道国際交流センター、JICA函館デスク（共催）

場 所： （財）北海道国際交流センター（北海道函館市元町14-1）

出張者： 特定非営利活動法人 難民を助ける会 名取 郁子

参加者： 約50名

実施内容：

函館市元町にある北海道国際交流センターにおいて、広く一般の方々に世界の文化や国際協力・交流事業について知ってもらうことを目的として開催された「世界ガチャガチャ夜市」において、当会が南スーダンで取り組む国際協力活動と南スーダン事情について1時間の講演を行った。一般の方々が対象の講演であることを考慮し、クイズ形式の問いかけ、DVD放映、さらに南スーダン駐在中に出会ったスーダン人の話なども織り交ぜた内容にし、国際協力について広く興味を持って頂くきっかけとなるよう工夫した。

所感：

国際交流イベントに足を運ばれた一般の方々が、南スーダンや国際協力にどれだけ興味を持ってくださるか未知の部分もあったが、アフリカ料理紹介コーナーも同室内に設置されるなど明るい雰囲気の中で話を聞いていただけた。講演終了後は、国際協力への関わり方や南スーダンの石油問題と今後についての質問、また使用したパワーポイント資料を所属する組織で使いたいなど、聴衆の方々からさまざまな反響が寄せられた。



（クイズ形式で問いかけを行った）



（講演を聞きに来て下さった方々）

作成日： 2012年10月1日
 作成者： 日本国際ボランティアセンター
 緊急支援担当 下田寛典

1. 講演テーマ：「緊急支援から復興支援への道のり～海外での震災復興から考える～」
2. 実施日時：2012年9月28日（金）18時～20時
3. 実施場所：日本大学三島駅北口校舎 N407号教室
4. 主催：やしの実の会
5. 参加者数：約12名（日本大学学生8名、一般4名）
6. 講演概要：

冒頭 JVC の団体紹介を行い、本題である災害支援の話に入った。主に、「時間経過とニーズの変化」、「支援の公平性とスピードのバランス」、「文化・風習の尊重」、「東日本大震災と海外での災害支援の違い」の4点について講演した。一部ワークショップ形式を取り入れ、緊急期に必要な物資支援についてブレインストーミングをしたり、海外での災害支援の事例を用いてクイズ形式でそれぞれのトピックについて具体的、且つ、参加者に考えてもらえるよう工夫をした。コミュニティ開発の支援と災害時の緊急支援は切り離されているものではなく、緊急支援を通じて復興を早急に進める鍵はコミュニティの結束（住民同士のつながり）が重要であり、それを考える上で、平常時におけるコミュニティ開発が緊急時にも活きるということを伝えた。



7. 質疑応答：

① 海外で活動する NGO が国内でも活動するにあたって、その正当性をどう捉えているのでしょうか？

回答：グローバル化が進む中で、日本で暮らす私たちの暮らしはもはや世界との繋がりを無視できなくなっている。それは海外も同様で、本人の意思に関わらず、否応なく繋がってしまう時代に私たちは立っている。海外で起きている問題をいかに日本人の問題として捉えられるようになるか、もしくは、日本で起きている問題をいかに海外に伝えていけるか、それが日本の NGO の果たすべき役割であると考えている。

② 東北のボランティアは今でも必要とされていますが、現在必要なのはどんなことでしょうか？

回答：災害発生直後は水害への対応として家屋清掃や泥かき等の肉体労働がボランティア活動の中心だった。時間を経て、水害による直接被害については概ね解消されている。現在は心のケアや住まいが異なる個々の状況に合わせた個別支援が求められている。ある程度の滞在期間を持って、住民との信頼関係を作りながら住民の話に耳を傾け、細かなニーズを拾っていくことが重要になってきている。

③ NGO が活動を新規で計画する際、団体内での意思決定はどのように行われているのでしょうか？

回答：団体毎に意思決定の方法は異なるが、JVC の場合は、事業担当者が提案を作り事務局に投げて合意を得ることで活動が開始できる。コンセンサス重視で合意形成までに時間がかかるが、事務局全体で事業を支えていく姿勢が JVC の特徴であるともいえる。

④ 東北震災の集団移転に関して、住宅ができるまでに2,3年かかるとのことでしたが、それほど長くかかるのはどうしてでしょうか？

回答：地盤調査を行い、造成するまでに1年ほどは時間がかかってしまう。それ以外にも行政手続きに時間がかかること、地権者との交渉・承諾に時間がかかること、家を発注したくても需要過多で業者がすぐに動き出せないことが時間がかかる理由として挙げられる。

⑤ 海外と日本の災害に関わってきたとのことですが、そこに住む人々のメンタリティとして何か共通性はありますか？

回答：今回の災害を受けて、JVC の海外の活動地でも募金活動が行われた。支援する側／支援される側に捉われず、「困ったときはお互い様」という気持ちは共通だと感じた。気仙沼でも過去に阪神淡路大震災で行政支援にあっていたようだ。今回の災害を受けて、兵庫県から多くの支援が集まった。恩返しへの思いが強く、そうした「助け合い」の精神は万国共通だと思った。

8. 所感：

主催者である「やしの実の会」はフィリピンでの教育支援を行う NGO（任意団体）。昨年に茨城県から静岡県三島に拠点を移して、今回が初めての静岡県での勉強会となった。三島での認知度がそれほど高くない中での講演会の開催ということもあって参加者が少なかった。少人数ではあったが質問が講演中にも飛び交うなど関心の高さがうかがえた。東日本大震災を機に、ボランティアや NPO、NGO に関心を寄せてくださる方は多くなったが、時間の経過とともに関心低下が見え始めている中、こうした講演会を通じて国内だけでなく海外との関係への関心を持ってくださったことは大変ありがたいことだと感じた。

実施報告

1. 企画名 : 世界を知ろう「地域を元気に！まちづくりの多文化活用術」
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他 (NGO 相談コーナー)】
2. 出張者氏名：池田 誠
3. 協力団体 / 依頼元団体名：滝川国際交流協会
4. 実施予定日時：平成 24 年 9 月 24 日 (月) 18:00~20:30
5. 実施場所：マリアージュ・インベルコ
(滝川市大町 4-7-38)

6. 企画の概要及び対象者

空知管内の国際交流・協力団体および自治体関係者が集まるイベントで、外国人をいかに受け入れて多文化共生社会をつくるかということ、そして国際事業がまちの活性化に役に立つことを相談コーナーで対応する。空知管内は炭鉱で栄えた町ではあるが、急速に人口が減っている地域でもあり、国際交流・協力あるいは多文化共生による再生は求められるところであり、意義ある出張サービスとなった。

7. 所感や効果

- ◆ 滝川市長をはじめ、議長あるいは企業の社長から、主婦、学生まで様々な人が集まる中で相談業務を行った。行政はもちろん市民としても地域の再生には期待をしているところがあり、移民受入や、国際協力、更にはイスラム、ヒンズーなど様々な宗教を持つ人々の受入に対しても関心を持ってもらい、多くの相談対応を行った。

*参加者 70 名・相談対応 17 件

- ◆ 写真 (1 枚以上添付)

